

1999年6月21日

ディケンズ・フェロウシップ日本支部
ニュースレター

1999年度春季大会は、快晴のもと中京大学名古屋学舎で行われた。100名を超える参加者があり、斬新な発表と画期的なシンポジウムに質疑が相次ぎ、充実した一日となりました。以下、そのあらましと、お知らせをご報告いたします。

1 春季大会

西條隆雄支部長による開会の挨拶があり、開催校への謝辞、たくましく豊かなディケンズ像探求への呼びかけ、および web-site の完成をはじめとする諸報告がなされた。つづいて研究発表、シンポジウムに移った。

- 1 研究発表は、梅正行氏（中京大学）の司会で、つぎの2名の発表があった。

西垣佐理氏「逆転の構図—Great Expectations における 病と癒し—」

松本靖彦氏

「ピップは自分の人生の主人公になれるのか—精神療法の観点から」

- 2 シンポジウムは「後輩作家から見たディケンズ」のテーマで、荻野昌利氏の司会のもとに斎藤九一氏（上越教育大）、天野みゆき氏（広島女学院大）、木村茂雄氏（大阪大）がそれぞれ Trollope, G.Eliot, Conrad の立場からディケンズ像を語った。

斎藤氏は Trollope の見たディケンズ像を披露し、天野氏は George Eliot が『荒涼館』からヒントを得て『フィーリックス・ホルト』を創作した跡を実証され、木村氏は Conrad がディケンズを尊師と仰ぎ、イギリスを舞台とする小説を書く時の重要なよりどころとしていることを指摘された。詳しくは次号の『会報』に期待されたい。

- 3 懇親会（於マルベリーホテル）には65名の参加があり、会員相互の楽しい交歓の場となった。

2 お知らせ

- 1 フェロウシップ日本支部の web-site (www.soc.nacsis.ac.jp/dickens) 完成。

日本支部の会員名簿、活動、会報、出版物に関する情報およびディケンズの年譜、詳伝、梗概等がここに一極化されました。今後、内容の一層の充実に取り組みたいと思っています。会員のみなさまの今年度（および昨年記載漏れ）の論文、著書等の業績を、松岡光治氏まで（できれば e-mail で）お知らせください。（会員以外の方の業績も、わかる範囲でお知らせください。年間の bibliography 作成に役立たいと思います）

e-mail: matsuoka@lang.nagoya-u.ac.jp

- 2 本年度の「会報」作成について。

青木健氏の英国出張のため、会報編集の代行を東北大学の原英一氏にお願いしました。会員のみなさまの投稿（1,000～2,000字程度）をお待ちしています。原稿締切は8月31日です。原稿は、まず e-mail で下記アドレスに送り、それとともに清書原稿を東北大学または自宅宛てに郵送してください。E-mail を使用されない方は、ワープロによる清書原稿のみを原氏にお送りください。

e-mail: hara_ei@sal.tohoku-u.ac.jp

- 3 1999年度総会、および来年度の春季大会は、つぎのように開催いたします。

(1) 総会はマイケル・スレイター氏の来日にあわせ、11月20日（於甲南大学セミナーハウス、JR住吉駅下車）に開催。

(2) 春季大会（2000年6月10日）は広島大学で開催。

- 4 海外の Dickens 学会紹介（例年、括弧内の時期に開かれています）

(1) Dickens Fellowship York Conference (York: 7.16～7.21)

(2) The Dickens Universe (Santa Cruz: 8.1～8.7)

以上